

学校教育から就業へのライフコースを的確に捉える統計 (縦断調査)の実施について

平成28年8月25日
文 部 科 学 省

■ 第Ⅱ期公的統計の整備に関する基本的な計画(抄)

「学校教育から就業へのライフコースを的確に捉える統計(縦断調査)の実施について、予算の確保や実施体制等多くの課題が存在することから、既存調査との連携も含めて、実現に向けて検討する。」

(平成27年度末までに結論を得る。)



■ 実施体制の整備

- ◆ 文部科学省では、縦断調査の実施体制を整備するため、平成28年度分の概算要求や定員要求を行い、この結果、予算として約1,200万円、実施体制として2人の配置が認められた。

■ 具体的な調査計画案

- ◆ 現在予定している調査計画の案は、次頁のとおり。
- ◆ なお、学校教育の段階から就職活動に至るまでのライフコース全般を的確にとらえるため、従来と同じ周期(毎年)で調査を実施する予定。
- ◆ また、調査対象の子供の進路選択には、生計を同一にする保護者の経済状態等が与える影響は大きいと考えられるため、保護者も引き続き調査対象とする予定。

文部科学省で実施する縦断調査について(予定)

○調査のイメージ

厚生労働省「21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)」の調査対象者に対し、学校教育(高校1年生)から就業に至るまでの約10年間調査することを目指す。

この際、学識経験者からなる研究会を設けて、調査事項などを検討する。

(座長：石田 浩(東京大学社会科学研究所教授))

■調査の概要案

○目的 2001年(平成13年)に出生した子供の実態及び経年変化の状況を継続的に観察することにより、子供や若者を取り巻く環境が、その後の進路選択等に与える影響を明らかにし、教育及び就業に関する国の諸施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的とする。

○意義 学校教育段階での学力や就業意識等と就業やその後の職業生活との関係、さらに、将来の安定した就業のために必要となる要因、といった知見が得られる。

○周期 毎年 ※平成29年1月から文部科学省で調査開始

○対象 全国の2001年(平成13年)に出生した子供のうち、1月10日～17日の間に出生した子供及び7月10日～17日の間に出生した子供、並びにその保護者
(※厚生労働省実施時の調査対象を全て継承)

○対象数 30,331人(第13回時点)(1月生:15,204人, 7月生:15,127人)

○主な調査事項

家族構成、本人の進路、学校(職場)環境、学校外活動、保護者の収入、教育費用